

午後 試験

問 1

出題趣旨

内部統制や情報セキュリティ上の要求から、職務分掌に応じた権限の付与や適切な職務の分離を確保するために、情報システムの ID やアクセス権限の管理が重要になっている。しかし、昨今の情報システムや組織の要員構成の複雑化、人材の流動化に伴って、その管理は難しくなっている。そこで、アクセス権限の付与や管理を適切かつ効率よく行うためのアイデンティティマネジメントが重要となってくる。

本問では、システム監査人として、アイデンティティマネジメントを支援するシステムの導入によって生じるリスクを認識し、それを踏まえてアイデンティティマネジメントの運用状況を監査する場合の監査手続を体系的に選択・適用する能力を評価する。

問 2

出題趣旨

財務報告の信頼性を確保するための内部統制の重要性が認識され、その不備の改善は今や企業経営にとって最優先課題の一つになりつつある。特に、情報システムが企業活動と密接にかかわっている状況において、IT にかかわる内部統制が有効に機能していることは必要不可欠である。したがって、その有効性を評価するシステム監査の役割はますます重要になっている。

本問では、情報システムの運営上の環境や特徴を踏まえた IT 全般統制の有効性について監査を実施する場合の監査手続と、IT 全般統制に不備が発見された場合の IT 業務処理統制の有効性を確かめる上での留意点を具体的に設定する能力と洞察力を評価する。

問 3

出題趣旨

自然災害や情報システムの障害などによって業務の中断が長引けば、それだけ事業目標の達成が難しくなる。それゆえ、企業はリスク管理の一環として、不測の事態に備えた事業継続計画を策定する。事業継続計画を実効性あるものにする上で、情報システム部門の責任は重大である。情報システムの迅速な復旧は最低限の要求事項であり、情報システムに直接的な影響がない場合でも、業務部門や外部組織の業務が中断することを想定し、それらに対応できる体制を構築しておかなければならない。

本問では、外部組織の業務が中断した場合への対応を例に挙げ、事業継続のために情報システム部門が担う役割の理解度と、事業継続計画の実効性を評価する際の監査上の着眼点を評価する。